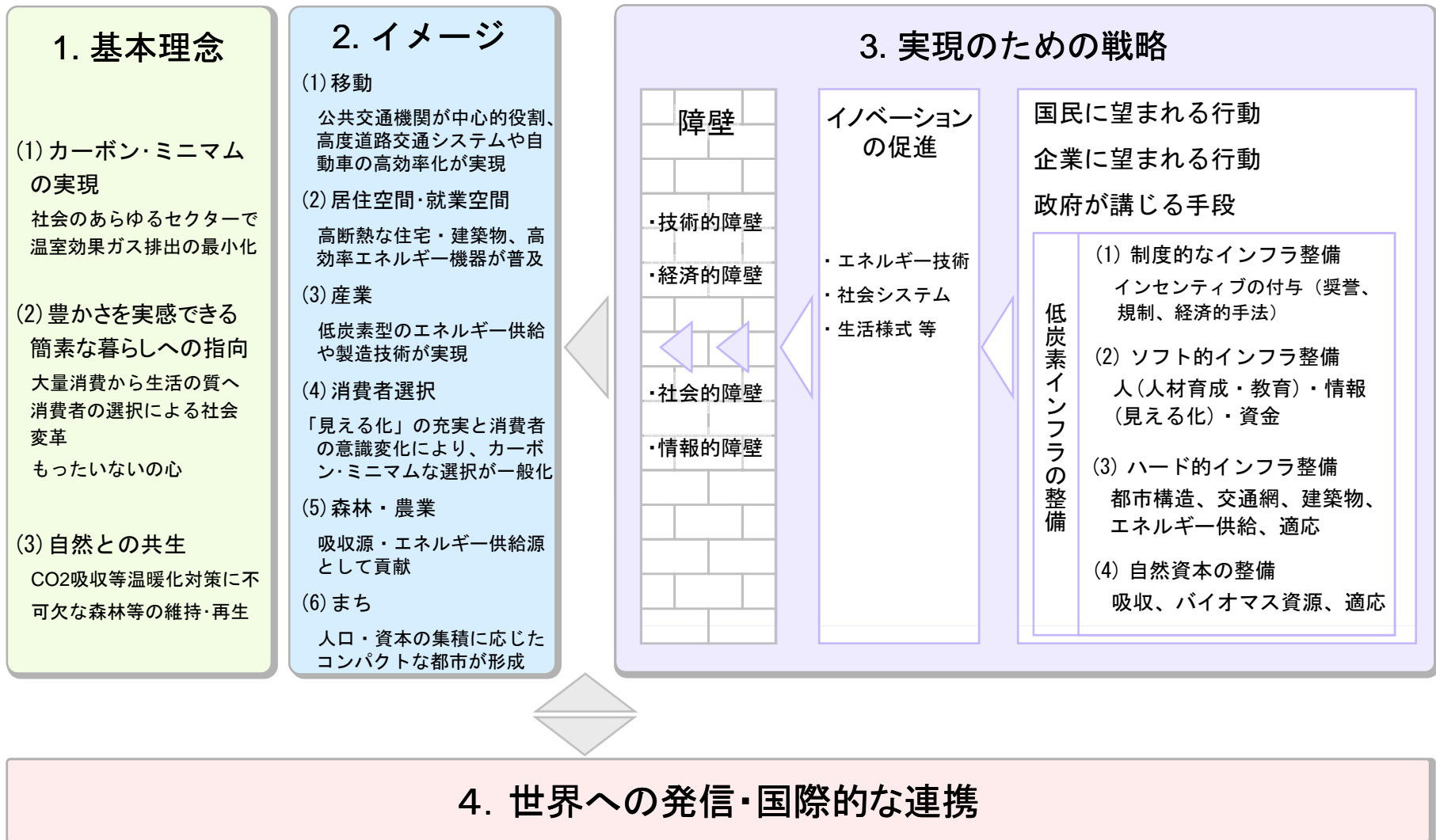


低炭素社会づくりに向けて

平成19年12月7日(金)

低炭素社会づくりに向けて



1. 低炭素社会の基本的理念

1. 低炭素社会の基本的理念

「世界全体の排出量を現状に比して2050年までに半減する」という低炭素社会の実現に向けては、世界が一丸となって最大限の努力を行う必要がある。例えば、半減した時点で、仮に一人当たりの排出量が世界全体で同じになるとすると、先進国では現在の2~3割程度、途上国では経済発展、生活の質の向上を達成しながらも、現状程度の一人当たり排出量に留めることが必要。このような社会は、現在のトレンドの延長線上には存在しないと考えられ、以下のような基本的理念のもとに、あらゆる主体が取組を進めていくことが必要。

(1) カーボン・ミニマムの実現

低炭素社会とは、究極的には、温室効果ガスの排出を自然が吸収できる量以内にとどめる(カーボン・ニュートラル)社会を目指すものである。そのためには、産業、行政、国民など社会のあらゆるセクターが、その選択や意志決定において、省エネルギー・低炭素エネルギーの推進や、3Rの推進による資源生産性の向上等により、二酸化炭素の排出を最小化(「カーボン・ミニマム」)するための配慮を徹底することを当然とする社会システムが必要。

(2) 豊かさを実感できる簡素な暮らしへの志向

人々は先進国を中心に形成された大量消費に生活の豊かさを求める画一的な社会から脱却し、家族やコミュニティとの絆、健康、自然との触れ合い、もったいないの心などに価値を置くことにより生活の質を高めることを志向する。このような消費者の選択が社会システムの変革をもたらし、低炭素で豊かな社会を実現する。

(3) 自然との共生

人間とその社会は地球生態系の一部であるとの認識の下、低炭素社会に不可欠なCO₂の吸収を確保し、今後避けられない温暖化への適応を図るためにも、森林をはじめとする豊かで多様な自然環境を保全し、再生することが重要。このため、地域社会において、バイオマス利用を含めた「自然調和型技術」の推進を図るなど、自然と調和・共生した社会づくりを進めることが必要。

低炭素社会の基本的理念

カーボン
・ミニマム

社会のあらゆるセクターで
温室効果ガス排出の最小化

豊かさを実感でき
る簡素な暮らし

大量消費から生活の質へ
消費者の選択による社会変革
もったいないの心

自然との
共生

CO₂吸収等温暖化対策に不
可欠な森林等の維持・再生

2. 低炭素社会の具体的なイメージ